

Japan Medicine MONTHLY

CLINICAL & MEDICAL NEWS

©じほう 2010 禁無断複写

JiHO 株式会社じほう

購読申込み専用電話 03-3265-7660 購読申込み FAX 03-3265-7751 ■ 振替口座 00180 - 8 - 900480 番 ■ 購読料 1年 6,300円 (税込価格/送料当社負担)・1部 525円 (税込価格/送料別)
【東京本社】〒101-8421 東京都千代田区一ツ橋 2-6-3 一ツ橋ビル (新設事業本部) TEL03-3265-9351 【大阪支局】〒541-0044 大阪府大阪市中央区伏見町 2-1-1 三井住友銀行高麗橋ビル TEL06-6231-7061 (代表)

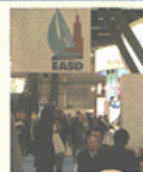
No.010 11月号

November.2010

10月25日発行

CONTENTS

カレント・トピック C型慢性肝炎治療の最前線 6~7
第33回日本高血圧学会総会 14~16
第69回日本癌学会学術総会 17
第58回日本心臓病学会学術集会 18~19
第31回日本肥満学会 21



第46回欧州糖尿病学会年次学術集会 12

第46回欧州糖尿病学会 (EASD) 年次学術集会が9月20日から24日まで、スウェーデンのストックホルムで開催された。世界100カ国以上から約1万8000人が集まり、最新の糖尿病治療薬や開発品、今後の治療展望などが活発に議論された。

特集

見逃せない一過性脳虚血発作

脳梗塞の前兆で抑え込む

疑い患者見極める基本の確認重要

脳卒中治療ガイドライン2009 (GL) での記載内容の充実や、今年の日本脳卒中学会、日本神経学会でシンポジウムが組まれるなど、一過性脳虚血発作 (TIA) が注目されている。その背景には、TIAを早期に診断・治療することによって、脳梗塞発症リスクを抑えられることを明らかにした海外の報告がある。GLやシンポは、こうした研究結果を踏まえ、日本独自のTIA診療を確立しようという強い姿勢の表れと受け止められる。国内の状況に目を向けると、20年前に定められた診断基準、救急診療体制の未整備、プライマリケア医の認識不足など立ち遅れが目立つ。そうした中で、これらの課題をクリアするためのさまざまな取り組みが動き始めた。特集では、TIAをめぐる国内の現状と展望を、診断、治療、診療体制といった切り口から探った。



第69回 日本癌学会学術総会 | がん征圧に向け最新知見を報告

熊本大・中野氏

Angptl2 難治性乳がんの新しいターゲットに

第69回日本癌学会学術総会が、9月22～24日の3日間、大阪市で開催された。テーマは「がん征圧へ向けての知の統合」で、がん研究の基礎から臨床応用まで最新の知見が報告された。「乳がん個別化治療を目指した分子診断の最前線」のシンポジウムで熊本大分子遺伝学の中野正啓氏は、進行・再発乳がんにおけるアンジオポエチン様タンパク質2 (Angptl2) の役割について講演。Angptl2は治療抵抗性の乳がん症例の新しい治療ターゲットになりうると指摘した。

Angptl2は、局所の慢性炎症を誘導する因子として知られる。これまでに中野氏らは、乳がん細胞においてAngptl2が発現していることを報告している。

中野氏らは、Angptl2と乳がん患者の臨床状態との関係について調査。対象は2003～08年に同院を受診した乳がん患者275人（非浸潤性乳管がん32人、原発浸潤性腺管がん192人、進行・再発乳がん51人）、健常者300人で、血清Angptl2濃度を調べた。

その結果、進行・再発乳がん患者



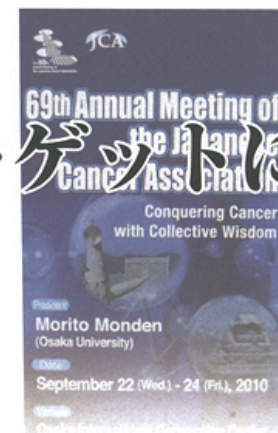
中野氏

群では、健常者、非浸潤性乳管がんや原発浸潤性腺管がんよりも血清Angptl2濃度が有意に高いことが確認された。

また、乳がんサブタイプ別 (Luminal、HER2、トリプルネガティブ (TN)) に血清Angptl2濃度を調べたところ、原発浸潤性腺管がん (遠隔転移なし) では、TN症例がほかのグループと比べて有意に高

かった。進行・再発症例ではAngptl2濃度が各群で高いため、差は認められなかった。

さらに、中野氏らは、細胞株の中でもAngptl2が高発現するトリプルネガティブのヒト乳がんMB231細胞にAngptl2を5 μg/ml添加し、形態の経時の変化を確認。がん細胞に葉状仮足が形成され、間葉系細胞様



に形態が変化し、遊走能が亢進したことが推測され、定量的なアッセイでも遊走能の亢進が確認された。

中野氏はこうした結果から、がん細胞がAngptl2を発現している場合、Angptl2が分泌した細胞自身に作用したり、近傍の細胞に作用することで慢性炎症を引き起こすほか、がん細胞の遊走能や浸潤能が亢進すると説明。慢性炎症で脆弱になった血管にがん細胞が浸潤し、結果的に転移を起こすのではないかと考察した。

東北大病院・井上氏

EGFR-TKI